

「協働事業提案制度」に係る令和8年度実施事業について

1 提案事業の募集

(1) 募集区分

- ・区設定テーマ：パブリックスペースの利活用による地域コミュニティの醸成
- ・自由テーマ：地域活動団体等が日頃から考えている地域の課題解決に向けて、団体の専門性や先駆性、自由な発想を活かした事業

(2) 応募事業数

- ・区設定テーマに対する応募：0事業
- ・自由テーマに対する応募：3事業

2 実施事業の選定

外部有識者等で構成する「台東区協働事業提案制度審査委員会」において、提案事業について協働の必要性や事業の実現性などの観点から審査を実施。

(1) 台東区協働事業提案制度審査委員会の構成

委員	氏名	区分	所属・役職
委員長	安藤 雄太	外部有識者	特定非営利活動法人市民社会創造ファンド副理事長
副委員長	山藤 弘子	区民	地域日本語教育コーディネーター（文化庁） 多文化共生コーディネーター（東京都）
委員	森 純一	民間助成機関	東京ボランティア・市民活動センター副所長
委員	越山 陽子	中小企業診断士	公益財団法人台東区産業振興事業団 経営支援課 企業・人材育成支援員
委員	酒井 まり	中間支援組織	社会福祉法人 台東区社会福祉協議会事務局長
委員	前田 幹生	区職員	区民部長
委員	川田 崇彰	区職員	企画財政部 企画課長

(2) 審査項目

区分	審査項目
協働の必要性	現状課題の認識、役割分担、協働の必要性、事業効果（協働の効果、区民や地域への効果等）
事業の実現性	企画力（事業の新規性）、予算の妥当性、実現性（事業の計画性）、遂行意欲、連携性、将来性

(3) 1次審査（書類審査及び協議）結果

日時：令和7年7月23日（水）

提案事業名		提案団体名	順位	審査結果
自由テーマ	1 福祉施設への訪問型ダンスレッスン及び台東区に暮らす障がい児者向けのコミュニケーションダンスワークショップ「ハピ★ダンス」	A (一般社団法人フェアリーエンターテイメント)	1	通過
	2 防災フェーズフリー体験イベント「日常×もしも」みんなで防災フェーズフリー地図を作ろう	B	2	通過
	3 子どものいない人のためのプレ終活ワークショップ <PAANK ラボ (Pre Aging Action for No Kids) >	C	3	通過

(4) 2次審査（公開プレゼンテーション及び協議）結果

日時：令和7年8月27日（水）

提案事業名		提案団体名	順位	審査結果
自由テーマ	1 福祉施設への訪問型ダンスレッスン及び台東区に暮らす障がい児者向けのコミュニケーションダンスワークショップ「ハピ★ダンス」	A (一般社団法人フェアリーエンターテイメント)	1	採択
	2 防災フェーズフリー体験イベント「日常×もしも」みんなで防災フェーズフリー地図を作ろう	B	3	—
	3 子どものいない人のためのプレ終活ワークショップ <PAANK ラボ (Pre Aging Action for No Kids) >	C	2	—

（5）2次審査での審査委員からの主な意見

- ①「団体A（一般社団法人フェアリーエンターテイメント）」の提案に対して
 - ・この団体の課題認識と効果は評価できる。また、他自治体での実績で、中高生も巻き込んで実施しているというところで、教育分野での広がりも期待できる。しかし、団体運営の部分で不安があるので、講師の育成や地域の人と一緒に取り組むといったところを意識してほしい。
- ②「団体B」の提案に対して
 - ・事業の目的にある「防災を特別ではなく日常に」、また「多様な視点を取り入れた“誰一人取り残さない防災”」という考え方は重要だが、協働事業として実施するには、対象を広く来街者向けにするなどの工夫が必要。また、作ったマップをどう活かすかというアクションが組み込まれていると良かった。
- ③「団体C」の提案に対して
 - ・子供がいない、身寄りがいない人の終活支援というテーマは重要だが、提案内容は団体が確立しているプログラムであるため、区との協働による相乗効果が不明確である。また、地域への広がりや既存団体との連携も見えなかった。

3 採択事業（令和8年度実施事業）の概要

（1）事業名

コミュニケーションダンスワークショップ「ハピ★ダンス」

（2）事業内容

障害者（児）の運動不足を解消し、心身の健康を促進するとともに、その家族や施設職員の負担軽減を図るため、団体スタッフが障害者（児）施設に出向き、オリジナルダンスマソッドのレッスンを行う。

（3）実施団体

一般社団法人フェアリーエンターテイメント

（4）事業担当課

障害福祉課

4 今後の予定

令和7年12月下旬 採択事業及び実施団体の公表（区ホームページ掲載）

令和8年度 事業実施